

【インプット】と【アウトプット】の繰り返しが記憶を定着させる

みなさんは、「いくら勉強しても記憶できない」「一度覚えてもすぐに忘れてしまう」といった経験はありませんか？誰でも一度はこんなことを感じた事があると思います。ある意味、「忘れる」というのは人間にとて当たり前なことで、必要性を感じている情報の記憶を定着させたり、嫌な（忘れない）記憶から自分を守るといった役割があります。「忘れる」ということは健全なことと言えます。

とはいっても、勉強では避けたいところですよね。そこで、自分の勉強法を振り返り、記憶が定着するようなやり方になっているか、考えてみましょう。



【インプット】と【アウトプット】のバランスが大事！

インプット（入力） …話を聞く、文章を読む、図や絵を見る、など知識や情報を得る事

アウトプット（出力） …人に話す、発音練習をする、書いて練習する、人前で発表する、など知り得たことを様々な形で表現する事

インプットした情報をアウトプットしないと、『分かった気になっている』場合があります。インプットしたことを実践してみたり、人に話す、文字にすることで頭の中の情報が整理されます。そして、アウトプットする時に自分が理解していない部分に気が付くことができるのです。

またアウトプットすることで、インプットで得た情報を自分の中にしっかりと定着させ、理解を深めることができます。

発音練習、書いて練習などはすぐに家庭学習でも実践できますね。
ちなみにおすすめの学習法は…「人に教えること」です！



Topic

ジョ布ズは自分の子どもにiPhoneやiPadを使わせなかった

withnewsより

小さな子どもが「ハイテク機器」に触れるこの危険性とは、まず有害なコンテンツにさらされること。そして最も怖いのは、こうした機器やネットの世界に依存する「中毒症状」に陥ってしまうことです。

ジョブズには4人の子どもがいることが知られており、家庭では、子どもたちのハイテク機器の使用を厳しく制限していたそうです。それから記者が「子どもとハイテク機器」に注目して取材してみると、米国のハイテク企業やベンチャー企業の幹部の多くが、家庭ではジョブズと同じようなことをしていたことが分かりました。

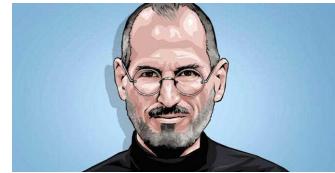
ツイッター創設者の起業家エバン・ウィリアムズ、雑誌ワイアード前編集長のクリス・アンダーソン、フェイスブックのアドバイザーをしているアリ・パルトビ・・・。彼らやその妻は、自分の子どもがハイテク機器の画面を見る時間を厳しく制限し、翌日には学校がある晩はまったく使わせなかったり、週末でもアクセスできる時間を禁欲的に制限したりしているといいます。

では、ジョブズの子どもたちは、父親が作った機器を使う代わりに、どうしていたの

でしょう？

伝記「スティーブ・ジョブズ」を書き、ジョブズの自宅を何度も訪れていたウォルター・アイザックソンに記者が取材したところ、「スティーブは毎晩、台所の大きな、長いテーブルで食事をしながら、必ず本や昔のことやいろんなことについて子どもたちと話し合うようにしていた」といいます。

「誰も、iPadやパソコンを持ち出すことはなかった。子どもたちが機器類に依存しているような感じは、まったくなかったね」

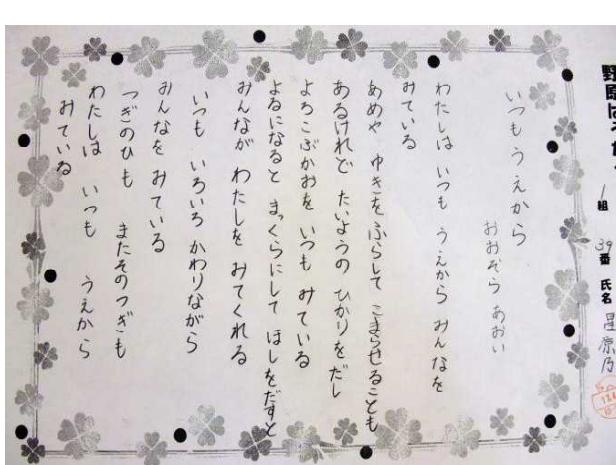


スティーブ・ジョブズ

アップル社 元会長（創業者、元CEO）

ピクサー 元社長（元CEO）

Gallery ギャラリー



作品紹介

1学年国語科

「野原はうたう」より

いつもうえから

おおぞら あおい

わたしは いつも うえから みんなを みている
あめや ゆきを ふらして こまらせることも
あるけれど たいようの ひかりをだし
よろこぶかおを いつも みている
よるになると まくらにして ほしをだす
みんなが わたしを みてくれる
いつも いろいろ かかわりながら
みんなを みている
つぎのひも またそのつぎも
わたしは いつも うえから みている

（星 涼乃さん作）

なみだは ぼくを しっている

なみだ なみお

なみだは ふしきだ

なみだは ぼくのきもちが

おみとおしなのだ

うれしいとき かなしいとき

くやしいとき むかつくとき

きづいたら なみだが でている

ぼくはもう なかないもんって おもっても

やっぱり なみだが でてくる

でもそのなみだは

ぼくを つよくしてくれる

ありがとう なみださん

（佐藤 夏恋さん作）

